

委員審査コメント

令和4年6月

評価基準	評価コメント
①IR区域全体のコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> まず、IR先行地域であるシンガポールや米国ラスベガスにおけるIRのコンセプト及び我が国へのIR導入の意義を考察した上で、大阪IRのコンセプトを策定しており、シンガポールのIRの特徴を認識し、それと差別化を図ろうとする姿勢がうかがえる。その策定プロセスは明確なものとなっている。 その中で、大阪・関西は、「日本においていち早く交易と交通を発展させるとともに、深く多様な観光魅力、産業や文化振興を培ってきた」との地域の特徴を見出した上で、「大阪・関西、そして日本観光のゲートウェイとなり、大阪・関西と日本、世界を結び、新たな観光魅力やイノベーションを生み出し、地元産業と連携したグローバルMICEイベントの展開、IRを核とした地域の持続的成長をめざす」という、地域の強みを生かした独自性のあるコンセプトを策定している。 単なる「MICE」ではなく、「オールインMICE」を打ち出すことによって来訪客を囲い込もうとする姿勢が見て取れる。また、大阪らしい「水」をテーマとして取り上げているところが興味深い(ただし、大阪を「水都」と知っている日本人には理解できるが訪日外国人旅行者にそれをわからせる必要がある。)。「結び」「水(都)」「WOW」などの端的な言葉で大阪IRの特徴をわかりやすく示している。 区域整備計画で想定するイノベーションの創出について、イノベーションが期待される具体的な分野やその内容を申請者に対して確認する必要。

(誤)オールインMICE⇒(正)オールインワンMICE

個別評価シート

第1回会議分(6月20日(月)13時~14時30分(オンライン))

評価基準	評価コメント
<p>①IR区域全体のコンセプト</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大阪、関西の特徴を前面に出し、それを生かす姿勢は当然であるし、また重要ではあるが、IR来訪客が大阪を出てそのほかの日本各地を巡ってもらうという趣旨からすると、「日本のIR」というよりも「大阪のIR」という点がいささか強調されすぎている点に気になる。大阪の良さを引き継いで、その良さをそのまま日本各地にどのようにつなげていくかという考え方を知りたい。 • VIP、富裕層をある程度ターゲットしていることが文面から見て取れるが「富裕ではない層」をターゲットとするのかどうか、ターゲットとするなら富裕層とは違ってどのような戦略でこの層を取り込むのかという点について知る必要がある。 • 大阪IRは万博の跡地に立地の予定であるから、万博への来訪者を引き付ける優位性を持つともいえる。万博来訪者が持って帰国した後の日本・大阪のいわば「残像」をいかに取り込んでIRを訪れてもらうかという視点を持ってもらいたい。

評価基準	評価コメント
①IR区域全体のコンセプト	<ul style="list-style-type: none">「大阪・関西、そして日本観光のゲートウェイとなり、大阪・関西と日本、世界を結び、新たな観光魅力やイノベーションを生み出し、地元産業と連携したグローバルMICEイベントの展開、IRを核とした地域の持続的成長をめざす」というコンセプトについて、MICE整備による新たなビジネスの起爆剤、世界に向けた日本の魅力の発信による全国各地の魅力の紹介、送客機能による世界と国内各地をつなぐ交流のハブとなるという日本型IRの意義を明確に捉えて策定していることがうかがえる。周辺地域との調和として、水都として発展してきた大阪の歴史を踏まえ、臨海部に位置する夢洲の立地・眺望を活かし、豊かな水辺空間の持つ魅力を体現しようとしている。区域整備計画において「大阪・関西の観光魅力を活かして国際競争力の高い滞在型観光を実現する」とあるが、“国際競争力の高い”とする考え方について申請者にその詳細を確認する必要がある。

評価基準	評価コメント
③IR施設の規模	<ul style="list-style-type: none">IR先行地域であるシンガポールIR(マリーナベイサンズ(開業時。延床面積:約60万m²、敷地面積:約19万m²)及びリゾートワールドセントーサ(開業時。延床面積:約34万m²、敷地面積:約49万m²))などと比較し、大阪IR(延床面積:約77万m²、敷地面積:約49万m²)の規模は同程度以上であり、十分なスケールを有していることがうかがえる。

評価基準	評価コメント
⑤MICE施設の規模	<ul style="list-style-type: none"> 大阪IRのMICE施設は多様な規模の国際会議を開催できる施設となっている。最大規模のグランドボールルーム(6,821人)は、3,000人以上の大規模国際会議開催件数(ICCA基準、2015-2019年)で世界5位以内に位置するシンガポール・マリーナベイサングのサンズグランドボールルーム()やパシフィコ横浜の国立大ホール(5,002人)を上回る施設規模を有している。MICE施設全体として、国際的な会議を誘致・開催する上では十分な施設規模となっていることがうかがえる。

評価基準	評価コメント
⑥MICE施設の機能・設備等	<ul style="list-style-type: none"> • MICE施設の機能について、床下ピットや天井吊物機構、VIP来場者動線、飲食サービス、太陽光パネルの設置など、高度な需要に対応できるよう、一定の機能が計画されている。飲食サービスについては、来訪者の多様なニーズや環境に配慮した提供方法を予定しているかどうかについて要確認。 • 国際会議場施設に関し、区域整備計画に「各国との首脳級会合、閣僚級会合等の重要な国際会議等に対応可能な機能」との記載があるが、その具体的な内容について要確認。 • 展示等施設に関し、10,000㎡ずつに分割利用可能となっているものの、数千㎡程度の、より小さな面積での催事開催需要、及び小規模の展示・見本市を併設する国際会議開催需要も存在することが想定される。このようなより小規模な催事開催需要への対応方策について要確認。 • 動線計画に関し、複数催事の同時開催時等における動線確保や混雑回避等の運営面の工夫について要確認。 • 情報通信技術に関し、区域整備計画に「オンラインイベントの同時開催や、来場者の利便性に対応すべく、安定性・実用性の高い通信環境を整備」との記載があるが、開業が予定される2029年には様々な先端技術が開発・普及していることが想定される。情報通信技術の導入方針について、MICEの主要ターゲット分野において求められるレベルを考慮した説明を求めたい。

個別評価シート

第1回会議分(6月20日(月)13時～14時30分(オンライン))

評価基準	評価コメント
<p>⑦MICEの誘致・施設の運営方針等</p> <p>①国際会議場施設及び展示等施設の設置及び運営の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区域整備計画において、「大阪・関西が強みを有する10の産業に関するMICEイベントの誘致・創出を推進」という記述があり、10の産業の中に、国際会議等で参加人数の多いメディカルといった分野も含まれており、誘致ターゲットの設定に関し検討されたことがうかがえる。その一方で、メディカル分野の誘致に関して、神戸・京都など大阪府外も含めた近隣に立地する既存MICE施設との役割分担についての考え方について記述がなく、要確認。 既存の国内MICE施設では対応できず、誘致が難しいものへの取組について記述がなく、要確認。
評価基準	評価コメント
<p>⑦MICEの誘致・施設の運営方針等</p> <p>②国際会議場施設及び展示等施設の業務の実施体制及び実施方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣に立地する既存MICE施設との連携について、大阪国際会議場や大阪国際見本市会場などの大阪府内立地施設との連携方策が示されているが、大阪府・市やコンベンションビューロー、JNTO等との連携方策についても説明を求めたい。また、我が国におけるMICE開催件数の増加への貢献の観点から、より広域での連携も検討されているのか、要確認。 MGMのMICE施設運営については実績が示されているものの、MICE誘致に関する実績を読み取ることができなかった。MGM及び専属代理店が有するMICE誘致に関する知見・ノウハウや実績の内容について要確認。 MICEの誘致・企画・運営を行うに当たっては、高度の専門性を有するスタッフの確保のみならず、大規模イベント開催のスタッフの育成などを計画的に実施していく必要があるが、IR開業に向けてどのように実施体制を構築される予定であるのか説明を求めたい。

評価基準	評価コメント
⑩宿泊施設の規模	<ul style="list-style-type: none">• 総室数が約2,500室と、シンガポールのIR施設(マリーナベイサンズ約2,500室、リゾートワールドセントーサ約1,600室)に比較し同等以上となっており、また、総客室面積が約167,000㎡と十分な規模を有しており、IR区域への来訪者の宿泊需要に適切に対応できる規模を持っていることがうかがえる。• 宿泊施設である3種類のホテルの特徴がそれぞれ「エンターテイメントホテル」「VIP向け最高級ホテル」「多世代型アクアリゾートホテル」とあるが、外観や内装などからその特徴が十分読み取れず、また、「宿泊施設ごとに異なるターゲットに応じた客室を計画し、独自の価値を提供する」との記載があるが、これらの特徴との関係が必ずしも明らかでないため、説明を求めたい。• 宿泊施設の施設構成に関して、幅広い来訪者が訪問する宿泊施設もあるが、来訪者の属性に応じて、動線の配慮などの工夫はどのように考えられているのか説明を求めたい。

個別評価シート

第1回会議分(6月20日(月)13時~14時30分(オンライン))

評価基準	評価コメント
⑩宿泊施設の規模	<ul style="list-style-type: none"> 客室の広さは、全体で30㎡~45㎡以上、スイートで65㎡~85㎡以上となっており、シンガポールIRの宿泊施設(マリーナベイサンズ(開業時):全体で39㎡以上、スイートで97㎡以上、リゾートワールドセントーサ(開業時):全体で32㎡以上、スイートで66㎡以上)と同等の大きさとなっていること、また、スイート比率は全客室数の約20%以上と、シンガポールのIR施設(マリーナベイサンズ(開業時):10.3%、リゾートワールドセントーサ(開業時):12.2%)を上回っていることから、客室について国際競争力を有することがうかがえる。 特に、「大阪MGMヴィラ」は全客室がスイートであり、最小部屋面積が400㎡~490㎡と、富裕層の宿泊需要やハイエンドの顧客向けの企業の需要にも対応した提案と考えられ、シンガポールIRの宿泊施設と比較して、独自性を有することがうかがえる。

個別評価シート

第1回会議分(6月20日(月)13時~14時30分(オンライン))

評価基準	評価コメント
<p>⑮IR区域内の交通利便性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国内外の主要都市を結ぶ国際空港、国際港湾、鉄道ターミナル駅等からの域内アクセスについて、大阪IR周辺では、地下鉄新駅の設置、既存アクセス道路の改築等のインフラ整備が計画され、鉄道、車といった複数の交通アクセスを有しており、交通利便性が確保されていることがうかがえる。 • 所要時間について、関西国際空港から大阪IRまで鉄道で約70分、車で約40分と、IR先行地域であるシンガポールIRとの比較においても、チャンギ国際空港からマリーナベイサンズ及びリゾートワールドセンターサまで鉄道で約30~70分、バスで約60~90分と同程度の交通利便性を有するものと評価できる。 • 混雑対策について、大阪IRが立地する夢洲地区への訪問者増加等に対応するため、地下鉄の延伸などの交通インフラ整備に加え、自動車利用の抑制、ピーク時需要の削減等のソフト対策が計画されている。このソフト対策の具体的内容について、申請者に確認する必要。

評価基準	評価コメント
<p>⑩IRに関連し都道府県等が行う交通アクセスの改善等</p> <p>①IR区域の周辺地域の開発及び整備、交通環境の改善その他のIR区域の整備に伴い必要となる関連する施策、当該施策の実施のために必要な体制の整備その他のIR区域の整備の推進に関する施策及び措置(当該施策及び措置の実施に要する費用の見込みに関する事項を含む。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 立地市町村と連携して、鉄道・道路・海上・航空アクセスといった複数の交通アクセスに係るインフラを整備することを計画しており、かつ、関係者との役割分担や調整も行われていることが伺え、優れたIR区域を整備するために効果的な交通アクセスの改善策が講じられることがうかがえる。 インフラについては整備の方針も明確に見える一方で、そのインフラを使って運行する鉄道事業者、バス事業者などの運行事業者は大都市だけに多岐にわたるため、事業者間(異種交通機関間を含む。)での調整(利害調整や費用負担調整を含む。)をIR開業に向けて余裕をもって円滑かつ十分に進めていくことを期待したい。 IR事業者は、インフラ整備費用の一部として、202億5,000万円を負担するとの記載について、費用計上の根拠について、申請者に対して確認が必要。 インフラの維持管理や観光振興など、IR開業以降の継続的な施策については、十分に読み取れなかったため、これらの施策についても円滑に実施されるものであるかについて、申請者に対して確認が必要。

個別評価シート

第1回会議分(6月20日(月)13時~14時30分(オンライン))

評価基準	評価コメント
<p>①IRに関連し都道府県等が行う交通アクセスの改善等</p> <p>②MICE誘致、観光振興、これらの実施のために必要な体制の整備その他の国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現するための施策及び措置(当該施策及び措置の実施に要する費用の見込みに関する事項を含む。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • MICE誘致のための施策及び措置について、大阪独自の戦略に基づき、大阪府・市、経済団体、大阪観光局及びIR事業者が一体的に連携して取組むオール大阪としての体制を整備することにより、円滑な実施体制を構築しようとしていることがうかがえる。 • 国内MICE拠点との役割分担は差別化を図って競合を避けるという点では評価できる。ただ、その調整は実際にはどのように行われるのか、競合した場合はどうするのかという長期的な見通しは持つ必要がある。また観光ルートの設定は来訪客の手間を省き、よりよい観光拠点を効率よく回ってもらうための有力な戦略であると考えられる。 • 「大阪府・市、経済団体及び観光局が一体となり、IR事業者とも緊密に連携し」という箇所が抽象的なので、もう少し詳しい説明が欲しい。 • 「食、歴史、文化芸術、エンターテイメント等大阪の強み」というが、具体的には何が強みなのか(ほかの地域でも同様に強みとしている都市はあるので)。

評価基準	評価コメント
⑳IR事業者等の事業遂行能力	<ul style="list-style-type: none"> • IR事業者の役員の経歴、IR事業者の中核株主であるオリックス及びMGMにおけるIRを構成する各施設と同種類似施設の実績、専門的知見を有する委託業者の各施設の運営に関する協力体制、また、それらを踏まえたIR事業者の設計・建設、開業準備、運営・維持管理等の各段階における業務の実施体制・方法から、IR事業者やその構成員が事業を確実に遂行できる能力を有すると認められるとともに、構成員の間での役割分担と連携が適切に行われることが十分うかがえる。 • 中核株主である日本MGMリゾート及びオリックスの出資比率が同額であり、代表取締役も同2社から1名ずつ選任されているところ、迅速な意思決定に支障が生ずる可能性があると考えられる。対立により会社の意思決定が難しくなる状態の解消の仕組みの有無について申請者に要確認。 • 従業員の確保に関しては、継続的な事業運営を行っていく上では重要であるが、教育機関等との連携など抽象的な表現にとどまっていると考えられる。大阪IR株式会社及び合同会社日本MGMリゾートについて、現状どのような人員・体制で業務を行っているのか、中長期的に、各部門別に、どのような雇用計画・人材育成の方策を検討しているのか、オリックス・MGMによる現在・過去の同種類似施設での実績などをもとに、申請者に対して確認が必要。 • オリックス・MGMが、設計・建設、開業準備、運営・維持管理等の各段階における支援を行うため、IR事業者との間で各種契約を締結し、必要なノウハウ、サービス等を提供するとあるが、具体的にはどのようなノウハウ、サービス等を提供することを検討しているのか、現在・過去の同種類似施設での実績などをもとに、申請者に対して確認が必要。